

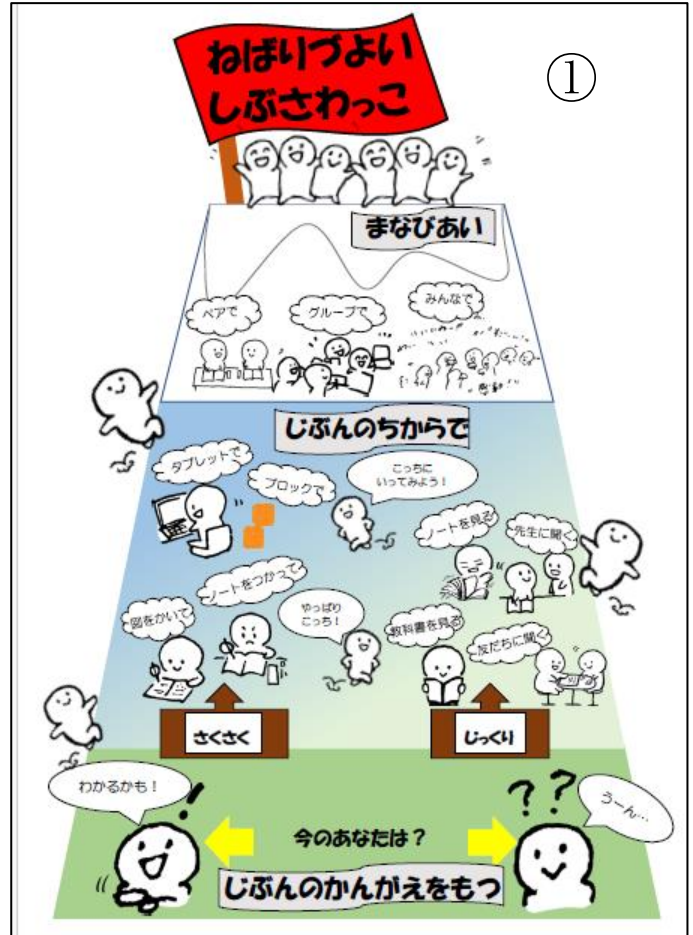


渋沢つうしん

《粘り強い渋沢っ子》

学校には教員の指導力向上のために「校内研究」という取り組みがあります。渋沢小学校では研究テーマを「粘り強い渋沢っ子」を育む授業づくり～学びあう活動の工夫を通して～として、算数科を通して研究を進めています。秦野市全体でも教育振興基本計画の中で「すべての子どもたちの可能性を引き出す新たな学びのスタイル」に取り組む、としています。「新たな学びのスタイル」とは、これまでの「教員が一斉に教える」だけでなく、「子どもたちが自ら学ぶ」という学習スタイルです。①は今年度の校内研究で作成した新たな学びのスタイル「渋沢っ子の山」です。ここに示されているように、まず課題を立て、課題解決のために必要な学びを自ら選び、課題に取り組んでいきます。そして学び合いによって考えを深めていき、思考力を高めたり、知識の定着を図ったりしていきます。渋沢小学校では学習のねらいや児童の実態に合わせて、このような学習スタイルを取り入れています。その学習スタイルがより良いものになっていくように、教員は日頃から話し合い、検討を行っています。学校全体で話し合う場を設けることもあります。1月

23日（火）5校時に1年1組で授業研究が行われ、②がその時の様子です。今回は講師として横浜国立大学池田教授にご指導をお願いし、秦野市教育委員会指導主事にも参加していただきました。授業は算数「100までのかずのけいさん」です。授業は100までの数について、たし算、ひき算の仕方を考えるという内容です。学び合いとして、自分の考えを友達に説明するという場を設定しました。その中で子どもたちは自分の考えを言葉で説明したり、ノートに書いた図を使って説明したり、友達のノートを見せてもらい友達の考えを推察したりするなど、これまでの積み重ねがあらわれていました。また、授業後の教員の研究会では、「間違えてもよいので、まずやってみる態度の育成」の大切さについて改めて確認され、早速明日の授業でもいかしたいという教員の感想もありました。



今回講師をお招きして全体で研究するという設定された場でしたが、普段の授業の中でも同じような「学び合い」の場面をよく見かけます。(③)「教員が教える」だけでなく、「子どもたちが自ら学ぶ」という学習環境を整えることを、渋沢小学校全体としてこれからも取り組んでいきます。

《スマイルレター スマイルレインボー》

本部委員会が11月から取り組んでいるスマイルレター。身の回りにいる人たちにありがとうの気持ちを伝える取り組みです。気持ちを伝える相手は様々。クラスの友達、学年の友達、登校班の友達、担任の先生、学校の様々な先生など。所定の用紙にありがとうの気持ちを書き、ポストに投函します。すると、本部委員会児童が用紙を回収し、その中からピックアップされたメッセージを毎日の給食中の放送で紹介をしてくれています。おいしい給食を食べながら、スマイルレターを聞いていると、一人一人の気持ちがほっこりとして、学校全体の雰囲気は温かくなるような感じがします。その後、写真にあるようなスマイルレインボーとしてきれいに貼り出してくれます。掲出されているスマイルレインボーからいくつかを紹介します。



「班長さんへ いつも学校に行かせてくれてありがとうございます。」「調理員さんへ いつもおいしい給食を作っていただきありがとうございます。」「くばり係さんへ いつもノートや理科の道具を配ってくれてありがとう。」「〇〇先生へ いつも授業をわかりやすく教えてくれてありがとう。」「宮原先生へ いつもおいしい給食の献立を考えてくれてありがとうございます。毎日の給食がおいしい！大好き！」「〇〇さんへ いつも班長お疲れ様です。私は来年、副班長がんばるから応援してね。いつもありがとう。」「本部委員会の人たちへ スマイルレインボーを企画してくれてありがとう。」「〇年〇組のみなさんへ 先生の声がカスカスの時、心配してくれてありがとう。」

このように様々な場面で子どもたちは感謝の気持ちを感じ取り、それをスマイルレターとして表現し、スマイルレインボーの中で受け取っています。スマイルレインボーは中央昇降口正面に掲出されているのでご来校の際はぜひご覧ください。

《大谷選手のグローブ》

「野球やろうぜ」大谷選手からのお手紙の言葉の一部です。大谷選手からプレゼントされたグローブが渋沢小学校にも届きました。早速、一週間ごとに各学年にグローブを回し、グローブを手にはめる、グローブをはめてボールを投げる、グローブでキャッチする、など学年の発達段階に応じた場を考えています。そして、できればキャッチボールができるようになるというと思います。キャッチボールは相手を思いやる心を育てます。投げる側は、とる人がとりやすいところを狙って、とりやすいスピードで投げます。とる側は、投げる人や投げられたボールをよく見てキャッチします。上手に投げられたら、上手にキャッチできたら、これが何回か続いたら、と楽しみが広がっていきます。投げるのにも、キャッチするのにもある程度の技術が必要ですが、その技術を競うことや相手に勝つことを目的とせず、相手と心を合わせて作り上げる時間がとても心地よいです。渋沢小学校の学校教育目標に「健康の大切さを自覚し、進んで体を動かすことができる児童の育成」があります。寒い季節ですが、体を動かす機会を多く設け、友達と一緒に運動を楽しみ、心も体も健やかに育ててほしい。大谷選手の思いと渋沢小学校の思いは、同じ方向を向いているのだろうなと感じました。



グローブをはめて、的に向かって全力投球！